



2017/5/1

横浜市立中川西中学校 学校だより Vol. 26

# 中川西中 Times

## 5月号

(略して「ナカニシタイムズ」)

&lt;学校教育理念&gt;

# 自立貢献

 発行者： 校長 平川理恵  
 中川西中 Tel 045-912-1270

## 今年、やります！ 働き方改革

校長 平川理恵



1年前にオランダへ教育視察に行きました。「私立・公立にかかわらず授業料が無料」という教育体制もさることながら、オランダの働く人たちの状況が、目から鱗でした。ワークシェアリングで皆が週休3日。学校は週5日制。よって、担任は2人います。8時半くらいから仕事が始まり、5時にはオフィスは誰もいません。子育てに関しても、保育園に通う子どもは2割程度。月曜日はお父さん、火曜日はおばあちゃん、水曜日はお母さん…というふうに、家族や近所の人が順繰りで子どもの面倒がみられるからでしょう。それでいて、オランダの生産性は日本の1.5倍。働く時間が短いのに、効率がいいのです。日本もすぐには無理だと思いますが、政府も働き方改革を進めているし、近い将来そうなればいいなと感じます。

それには人口構造的な事情もあります。日本はこれまで人口が増え続けてきました。これを「人口ボーナス期」と呼びます。24時間いつでも働ける・若い・男の人がどんどん確保できました。ところが今は「人口オーナス期」。人口が減っているのです。24時間いつでも働けなくても、若くなくても、男の人でなくても、日本人でなくても、さまざま特性があっても…誰もが社会参画し、生き生きと人生を過ごしていこう！という時代です。そんなきれいごとを…と感じる人もいるでしょう。でも、「皆でそうしていこう！」という気持ちが大切なのです。

学校も、なかなか難しいことではありますが「教員の多忙化解消」に向けさまざま取り組み始めています。「多忙化解消」といっても、時間のみを削る効率化だけではないと思います。よく世の中で言われているような「部活が悪い」「〇〇教育が悪い」…などの犯人探しをするのではなく、「生産性=仕事の質」を高めることが目的です。公立中学校の教員にとっての仕事の質とは、「生徒一人ひとりの自己実現の支援ができていくかどうか」ではないか…生徒・保護者にとっては「一人ひとりについての支援」の満足度が高い状態を指すのではないかと…そこに特化していきたいのです。これまでも、学校行事の精選、部活動が教育課程外であることを保護者会で伝える、事務仕事や手配業務はできる限り業者や地域コーディネーターにお願いする、といった工夫をしました。その上で科学的な根拠に沿って見取りをしていきたいと思い、4月中旬に業者テストを行いました。1学期の3者面談では、生徒の強み・弱みは何か、現在の力に応じた学力が得られているか?もし得られていないとしたら、心理的な原因は何か?学習との適応・関係性を科学的に分析すると何が原因か?等、共有していけるといいなと思います。

なにより、エネルギーッシュな中学生の皆さんにエネルギーッシュに対応するには、先生たちがヘトヘトでは務まらないでしょう。仕事・プライベートとも充実している先生は、生徒にとっても魅力的でしょう。「すぐ」には難しくても、様々工夫していきたいです。仕事ひとつひとつを「誰のために」「なぜ」を鋭く深く問うていく「選択と集中」が必要だと思うからです。



2017/10/10

横浜市立中川西中学校 学校だより Vol. 30

# 中川西中 Times

## 10月号

(略して「ナカニシタイムズ」)

&lt;学校教育理念&gt;

# 自立貢献

 発行者： 校長 平川理恵  
 中川西中 Tel 045-912-1270

## 留守番電話、導入させていただきます

校長 平川理恵



この1年くらいでしょうか。教員の多忙化と働き方改革がマスコミで多々取り上げられるようになったのは…。民間企業と学校の両方経験してきた私としては、学校ばかりが忙しいわけではなく、民間企業の大変さも知りつつ、しかしブラック部活・理不尽な要求・文書作成等、新聞等で書かれているこれらの事案が少しでも解消できないものかと感じています。

9月14日に、(株)ワークライフバランスの田川拓磨さんを講師にお招きし、教員全員で研修をしました。お話の中で大変皆が納得していたのは、日本は人口が増え続けた「人口ボーナス期」から、人口が減り続ける「人口オーナス期」に入ってきたとのこと。世界中どこの国も、1度人口オーナス期に入ると2度と人口ボーナス期はこないとのこと…。だからですね、数年前までは、人が辞めても「お前の代わりはいる」という状態だったのが、もう代わりはいないのです。外食産業のお店が、働く人が採用できないから閉店、ということも驚かなくなりました。つまり、これまでは「24時間働き続けられる、若い、男性」が活躍していましたが、これからは「24時間働き続けられなくても、若くなくても、男性でなくても」活躍できるようにならないと世の中が持たないのです。

田川さんは、様々な業界で働き方改革のお手伝いをされているそうですが、大変わかりやすい例で警察のことをお話してくださいました。仮に、事件が起こって、そこに疲れ果てている警察官がきたらどうでしょうか？犯人を捕まえられますでしょうか？やはり、元気にエネルギーに対応しないと、犯人を捕まえるどころか逃してしまう…なんてことにならないでしょうか？先生たちも一緒です。常に働きすぎで、睡眠不足で、疲れている先生が、エネルギーたっぷりの子どもたちにどのように対応できるのでしょうか？今回の働き方改革で、子どもたちの前で、いつもエネルギーでいられる先生を目指していきたいのです。

これまでも、1)部活動は教育課程外である 2)学校行事の精選 3)学校運営協議会等会議の資料をなるべく減らす等、お話をしたりお願いをしてきましたが、できましたら学校への電話の時間もご配慮いただけましたら幸いです。ご理解ご協力よろしくお願いたします。

<留守番電話で対応させていただく日時>

平日 19:00 以降、翌朝 8:00 まで、土日祝及び学校休業日は終日

\*17時以降、教職員全員の研修等で電話が取れないこともあります。

\*なお、勤務時間は17時までとなっておりますので、なるべく勤務時間内にお電話いただけますとありがたいです。

留守番電話メッセージ例：「ただいまの時間は、留守番電話で御用件を承っています。」